

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

(1) 国語

①国語A 主として「知識」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

【成果】 すべて領域において、基礎学力が身に付いていて、正答率が高い。

【課題】 ▲書く能力に課題

- ①表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，読みやすく、分かりやすい文章にすること。
▲言語についての知識・理解・技能を見る問題に苦手分野がある。
- ②語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。
- ③歴史的仮名遣いを現代的仮名遣いに直す。

【身につけさせたい力】

- 書いた文章を読み返し，伝えたい内容が十分に表されているかを検討する力
- 語句や慣用句、歴史的仮名遣いについての知識・理解・技能
- 行書の基礎的な書き方に関する知識・理解・技能

②国語B 主として「活用」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

【成果】 ①「書くこと」の領域における「書く能力」をみる問題の正答率が高い。
②「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域における「言語についての知識・理解・技能」をみる問題の正答率が高い。

【課題】 ▲「読むこと」の領域における読む能力をみる問題
目的に応じて文章を読み，内容を整理して書くこと

【身につけさせたい力】

- 文章の中心的部分と付加的部分，事実と意見などを読み分け，目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする力

【国語の対策】

- ①教科書教材に限定せず、多様な文章を教材として扱う。
- ②読み取って、書く能力を高める取組
 - ・文章を読み取り、要約して書かせる。
 - ・「〇〇字作文」など、字数を決めて書かせる。
 - ・読んで書く機会を多く設定し、慣れさせる。

(2) 数学

①数学A 主として「知識」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

- 【成果】**
- ①「数と式」の領域における、基本的な計算の技能をみる問題の正答率が高い。
 - ②「図形」の領域における基本的な技能や知識・理解を問う問題の正答率が高い。
 - ③「関数」の領域における基本的な技能や知識・理解を問う問題の正答率が高い。

- 【課題】**
- ①絶対値の意味を理解しているかどうかをみる問題
 - ②正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解しているかどうかをみる問題
 - ③「資料の活用」の領域における、いろいろな確率を求める問題

【身につけさせたい力】

- 実生活の場面において、ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数を使って表す力
- 樹形図や二次元の表などを利用して起こり得る全ての場合を数え上げ、確率を求めることができること

②数学B 主として「活用」に関する問題

平均正答率について、全道平均・全国平均を上回る結果となった。

- 【成果】**
- ①「図形」の領域において、図形の性質を活用する問題の正答率が高い。
 - ②「関数」の領域において、直線のグラフを事象に即して解釈し、読み取る問題の正答率が高い。

- 【課題】**
- ①数学的な見方や考え方をもとに説明する問題の正答率が低い。
 - ②百分率について理解し、表現する問題の正答率が低い。

【身につけさせたい力】

- 百分率の理解を深め、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるようにすること
- すべての領域において、情報を整理したり、わかりやすく図示したり、思考を深めるための方法や手段、考え方を身につける。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること

【数学の対策】

①数学的な見方や考え方を伸ばす授業実践

- ・多様な考え方が引き出せる題材を工夫する。
- ・既習事項をもとに、根拠を示しながら説明する場面を設定する。

②「活用する」能力を高める授業実践

- ・単元において、「活用問題」に取り組む授業を配置する。

(3) 理科 主として「知識」に関する問題、主として「活用」に関する問題
平均正答率について、全道平均を下回り、全国平均と同等の結果となった。

【成果】 物理的領域の光と反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能をみる問題の正答率が高い。

【課題】 ▲すべての領域についての科学的な思考・表現を問う問題に課題がある。

【課題がある問題の具体的な内容】

- 水溶液の質量に対する溶質の質量パーセント濃度を表す技能があるかどうかをみる。
- 台風の周りの風向を表した図から観測地点における風向を予想する場面において、風向の観測方法
- 条件制御の知識・技能を活用して、ガスバーナーの空気の量を変えて炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘することができるかどうかをみる。
- 化学変化の前後で「原子の種類と数」は変化しないという知識と、化学変化を原子や分子のモデルで表す知識・技能を活用して、ガスバーナーの炎が赤いときの化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できるかどうかをみる。
- 蒸発と湿度に関する知識と、問題解決の知識・技能を活用して、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することができるかどうかをみる。

【理科の対策】

- ①観察・実験の結果を整理、考察する学習活動を重視する。
- ②科学的な言葉や、概念を使用して考え、説明する学習活動を重視する。
- ③習得した知識や技能を活用する「活用問題」に取り組む授業を配置する。



全教科を通して授業改善のポイント

- ①統一した授業改善(主体的・対話的で深い学び)
- ②一人一人に応じた授業の展開
(発展的・補充的な学習など授業の指導方法の工夫・改善)
- ③興味関心、知的好奇心、有用感がわく教材の工夫
- ④話す・書く活動→条件を設定して(語句や字数)、考えや感想をまとめて
- ⑤課題と向き合う効果的な家庭学習の指導(とてっぼタイムによる学びの連続性)

学習状況調査(生徒質問紙)結果の特徴

◎	→	10ポイント以上上回っている。
○	→	5ポイント以上上回っている。
=	→	同程度
▼	→	5ポイント以上下回っている。

(1) 家庭での生活の様子

「朝食を毎日食べている」「同じ時刻に寝ている」割合は高く、家庭での生活が落ち着いているものと思われる。

しかし、「毎日、同じくらいの時刻に起きる」割合はばらつきがある。

質問事項	全国との比較
朝食を毎日食べていますか。	○
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	○
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	▼

(2) 家庭での学習の様子

家庭で宿題をする習慣が概ね身についている。自分で計画を立て、自分の課題を考え、予習・復習に取り組んでいる。また、読書に取り組んでいる生徒の割合も高い。

質問事項	全国との比較
家で、学校の宿題をしていますか。	=
家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	◎
家で、自分で計画を立てて勉強していますか。	◎
普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。 (塾、家庭教師も含む) (2時間以上の割合)	◎
授業以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (1時間以上の割合)	◎

(3) 地域連携

地域社会とのつながりが密接であり、様々な形で学校との連携の様子が現われている。

質問事項	全国との比較
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	◎
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	◎
地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。	◎

(4) 授業全般

教員との良好な関係が築かれている。

普段の授業では、話し合い活動やグループ学習、発表する活動等の数値が高くなっている。

質問事項	全国との比較
先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。	◎
1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。 (思う、どちらかといえば思う)	◎
1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。 (思う、どちらかといえば思う)	◎
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (思う、どちらかといえば思う)	○